



週間情報



No.0728

発行日 令和7年7月29日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

消防本部の動き

訓練

◆ 高知県消防防災航空隊と他給水連携訓練を実施

土佐市消防本部（高知）

土佐市消防本部では、令和7年6月30日（月）、仁淀川堤防場外離着陸場において、高知県消防防災航空隊と合同で、他給水連携訓練を実施しました。

この訓練は、水利遠隔地などにおける林野火災などの大規模火災事案に備えるため、消防職団員と航空隊員が迅速かつ確実に連携した消火活動を行うことを目的として実施したものです。

当日は、消防職団員が連携してホースを延長し、同航空隊が保有している消火バケツに給水した後、消火バケツをヘリで吊り上げ、空中消火訓練を実施しました。

また、訓練の最後には、振り返りを行い、他機関との連携活動について相互に理解を深めることができ、大変有意義な訓練となりました。

今後も、同航空隊と協力・連携体制を強化するとともに、災害現場における活動の共通認識と知識を深めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 無人航空機（ドローン）飛行訓練を実施

草加八潮消防局（埼玉）

草加八潮消防局では、令和7年7月3日（木）、草加市役所の職員と合同で、無人航空機（ドローン）飛行訓練を実施しました。

この訓練は、無人航空機の安全かつ正確な操縦技術の向上を図るとともに、さまざまな活用分野での応用方法を学び、災害活動などの実用的なスキルを身につけることを目的として実施したものです。

当日は、無人航空機の機能説明を行った後に、スクエア飛行訓練、8の字飛行訓練、FPV飛行訓練を実施し、空間認識力を養ったほか、機体の挙動などを再認識することができました。

今後も、実践に即した訓練を継続し、多種多様な災害に対して適切に対応してまいります。



【8の字飛行訓練の様子】



【FPV飛行訓練の様子】

◆ 中学生との救急隊連携訓練を実施

中津川市消防本部（岐阜）

中津川市消防本部では、令和7年7月9日（水）、市内の中学2年生が参加した、救急隊連携訓練を実施しました。

当日は、初めに救命講習を行い、生徒たちが基礎的な救急知識と技術を身につけた後、連携訓練において、代表の生徒が119番通報、口頭指導に従いながらの胸骨圧迫、AEDの操作を行ったほか、到着した救急隊に倒れた時刻や電気ショックの回数などの情報を的確に伝え、円滑な連携活動を行うことができました。

また、救急隊による特定行為を間近で見学していただきました。

生徒たちからは、「アドレナリンにはどのような効果がありますか。」「PEAとはどういう意味ですか。」との質問が寄せられ、救急活動に対する関心がうかがえました。

当消防本部では、中学生が同級生に心肺蘇生を実施し、社会復帰に成功した事例があります。

今後も、この経験を踏まえて、学校での応急手当の重要性を伝える活動を推進してまいります。



【訓練の様子】

◆ 警察機関と合同で水難救助訓練を実施

真庭市消防本部（岡山）

真庭市消防本部では、令和7年7月10日（木）、岡山県警察本部真庭警察署と合同で、水難救助訓練を実施しました。

この訓練は、河川における水難事故に備えるため、迅速かつ的確な要救助者の救出方法を習得するとともに、安全管理体制と連携体制の強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、浮環とスローバックによる陸上からの救出要領や救助ボートを活用した救出要領を実施し、連携の大切さや情報伝達の速さが救命に直結することを再確認することができました。

今後も、地域の安全・安心の確保のため、各機関との連携を一層強化してまいります。



【訓練の様子】

◆ 潜水救助訓練に併せてドローン操縦訓練を実施

甘木・朝倉消防本部（福岡）

甘木・朝倉消防本部では、昨年10月1日（火）から無人航空機隊を発足し、運用を開始しています。ついては、より一層の操縦技能向上を図るため、令和7年7月10日（木）、15日（火）の2日間、潜水救助訓練に併せてドローン操縦訓練を実施しました。

両日は、活動初期における周囲の情報収集と要救助者検索、潜水救助隊によるブイ設定補助、上流・下流における潜在的な危険要因の情報収集、上空から潜行隊員の安全管理、指揮隊・救助隊への情報共有など、実災害で想定されるさまざまな活動を確認しながら実施しました。

今後も、円滑な現場活動に向け、日々訓練を積み重ね、災害対応能力のさらなる向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 緊急消防援助隊実務研修の実施

駿東伊豆消防本部（静岡）

駿東伊豆消防本部では、令和7年7月2日（水）、緊急消防援助隊実務研修を実施しました。

当日は、静岡県が大規模災害により被災し、緊急消防援助隊を要請した場合、「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」に定められている指揮支援部隊として、静岡県庁または被災地消防本部へ派遣される横浜市消防局の職員を講師としてお招きし、過去の災害における指揮支援部隊の活動などについてご講義いただきました。

近年、緊急消防援助隊が活動する大規模災害が頻発していることから、今後も、管内における大規模災害時に迅速・的確な対応をするため、緊急消防援助隊の受援体制の強化に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 「消防職員ハラスメント防止研修会」を開催

枕崎市消防本部（鹿児島）

枕崎市消防本部では、令和7年7月10日（木）、11日（金）の2日間、「消防職員ハラスメント防止研修会」を開催しました。

この研修会は、「ハラスメントをしない、させない、見逃さない」職場環境づくりを目的として開催したもので、計39人の職員が受講し、一般社団法人日本防災教育訓練センターの代表理事であるサニーカミヤ氏を講師としてお招きして、近年のハラスメント事案などについてご講義いただきました。

また、職員がハラスメントを防止するために何をすればよいか、ハラスメントの相談などが寄せられたときの対応などについて、グループワークを行い、職員一人一人のハラスメントに対する意識を改革することができました。

今後も組織が一体となり、ハラスメント防止はもちろん、職員の働きやすい環境づくりに尽力してまいります。



【研修会の様子】

◆ 「事業所等自衛消防隊リーダー研修会」を開催

大垣消防組合消防本部（岐阜）

大垣消防組合消防本部では、令和7年7月11日（金）、北消防署において、「事業所等自衛消防隊リーダー研修会」を開催しました。

この研修会は、各事業所で組織されている自衛消防隊のリーダーに対して、火災、地震、その他の災害において、適切に対応するための知識と技術を習得していただくとともに、事業所などにおける自主防火防災体制の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、20人が参加し、救命講習、濃煙体験、屋内消火栓設備と消火器の取扱訓練を実施した後、講話を聴講していただき、改めて初期消火や避難誘導などの初期対応、日頃の訓練の大切さ、当たり前のことを徹底する「凡事徹底」に留意した内容としました。



【研修会の様子】

◆ 安全運転研修を実施

湖北地域消防本部（滋賀）

湖北地域消防本部では、令和7年7月16日（水）、長浜自動車学校にご協力いただき、安全運転研修を実施しました。

この研修は、消防車両などの機関員として、安全・確実な運行業務を遂行し、事故防止につなげることを目的として実施したものです。

当日は、さまざまな場面を想定した訓練を実施し、運転技術と危険回避能力の向上を図ることができ、多くの経験と気づきを得る訓練となりました。

今後も研修を継続し、職員全体で事故防止に努めてまいります。



【研修の様子】

そ の 他

◆ 災害現場功労団体と災害現場功労者に感謝状を贈呈

村山市消防本部（山形）

村山市消防本部では、令和7年7月7日（月）、災害現場功労団体に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年6月9日（月）に発生した救急事案において、ランニング中に倒れ、心肺停止となった男性に対して、災害現場功労団体のメンバーが救命処置を行ったほか、AEDを取りに行き搬送したものです。

今後も、市民の安全・安心の確保のため、応急手当の普及啓発に取り組んでまいります。



【贈呈式後の記念撮影】

◆ 消防協力者に消防長から感謝状を贈呈

生駒市消防本部（奈良）

生駒市消防本部では、令和7年7月10日（木）、消防協力者の6人（2人欠席）に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年5月5日（月）、市内の施設で発生した救急事案において、テニスの練習中に心肺停止となった50歳代男性に対して、現場に居合わせた消防協力者（テニスサークルの仲間）の6人が協力し、119番通報、心肺蘇生、AEDによる除細動を迅速に実施し、救急隊に引き継いだものです。

男性は、消防協力者の勇気ある行動により、搬送中に呼吸と心拍が再開し、その後、ドクターヘリに引き継ぎ、医療機関での入院治療後に社会復帰されました。



【贈呈式後の記念撮影】

◆ 消防協力者に感謝状と記念品を贈呈

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部（静岡）

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部では、令和7年7月16日（水）、消防協力者の6人に対して、消防長から感謝状と記念品を贈呈しました。

本事案は、同年5月29日（木）に発生した救急事案において、消防協力者である成人男性1人と市内の中学生5人が協力し、人命救助活動と119番通報を実施したものです。

消防協力者6人の迅速な対応により、尊い命が救われました。



【贈呈式後の記念撮影】

◆ 映像広告を活用した消防啓発コンテンツの広報活動を開始

西条市消防本部（愛媛）

西条市消防本部では、令和7年7月1日（火）、市内の民間施設などに設置されているLEDビジョンやディスプレイなどを活用した消防啓発コンテンツの広報活動を開始しました。

今後も、この広報活動を通じて、火災予防週間のお知らせ、消防団員の募集、熱中症の注意喚起などを表示し、地域住民に対して有用な情報を効果的に発信してまいります。



【広報活動の様子】

◆ 救命入門コースを開催

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和7年7月4日（金）、防災教育の一環として、草津市内の小学5・6年生110人を対象に、救命入門コースを開催しました。

当消防局では、幼少期から小学6年生までの9年間を通じて、繰り返し防災教育を行い、「自助」の意識を育むとともに、将来の防災の担い手を養成することを目的として、「9 years plan」を実施しています。

当日は、大切な命を守るため、訓練人形を活用して、胸骨圧迫を中心とした救急訓練とAEDの取り扱い訓練を実施し、初めて胸骨圧迫を体験した子どもたちの真剣な眼差しと懸命に取り組む姿をみることができ、職員一同、新鮮な刺激を受け、救急という仕事の意義を再確認する機会となりました。



【救命入門コースの様子】

◆ 「公安系公務員合同職業説明会」を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁世田谷消防署では、令和7年7月5日（土）、警視庁、自衛隊、海上保安庁と合同で、「公安系公務員合同職業説明会」を実施しました。

当日は、各職種の業務や魅力を伝えたほか、質疑応答も活発に行われ、職員との距離が近く有意義な説明会となりました。

なお、当消防署が作成した視認性の高い「職員募集のぼり旗」を設置したことで、スムーズな誘導に一役買いました。

参加者から「地域の安全を守る仕事の責任と誇りを感じられました。」「現場の話が具体的に参考になりました。」との声が寄せられました。

今後も、住民の安心を支えるやりがいを多くの方に周知するため、管内に大学が多数存在する当署ならではの積極的な募集広報に努めてまいります。



【説明会の様子】

◆ コミュニケーション力向上研修を実施

常滑市消防本部（愛知）

常滑市消防本部では、令和7年7月7日（月）、コミュニケーション力向上研修を実施しました。

この研修は、職員が一丸となって業務に臨むことを目的として、初めて外部講師をお招きし実施したものです。

当日は、午前に30代以下の職員30人が参加し、上司から「学べるもの」などについて学んだほか、グループ討議を行い、午後には、40代以上の職員27人が参加し、30代以下の職員がまとめた「世代間のギャップ」などを共有し、課題解決に役立てることができました。

今後も、全ての職員が気持ちよく仕事ができる働きやすい職場環境を推進するとともに、職員としての姿勢、あるべき姿、目指すべき組織像を明確にし、「自ら考え、行動する」職員を育ててまいります。



【研修の様子】

◆ 新しいシンボルマークの作成協力団体に対して感謝状を贈呈

天草広域連合消防本部（熊本）

天草広域連合消防本部では、令和7年7月10日（木）、熊本県立天草工業高等学校情報技術科CG系列の生徒に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

これは、新しい「天草消防シンボルマーク」を作成するに当たり、未来の天草を支える同高等学校の生徒が、「自分たちが求める消防のイメージ」をシンボルマークに取り入れていただき、天草への地域貢献を図ったものです。

このシンボルマークは、当消防本部における広報効果のさらなる向上を図るとともに、住民の皆さまが消防行政に親しみを持っていただくことを目的として作成したものです。

作成したシンボルマークは、消防章をイメージして、希望の象徴である星に六つの頂点を持たせたほか、「希望をつなぐ天草消防」の意味を込めるため、青い海に囲まれた九州本土と六つの橋でつながる天草になぞらえています。

今後は、天草地域の安全・安心に関する情報発信などに活用してまいります。



【新しいシンボルマーク】



【マークの入った車両と記念撮影の様子】

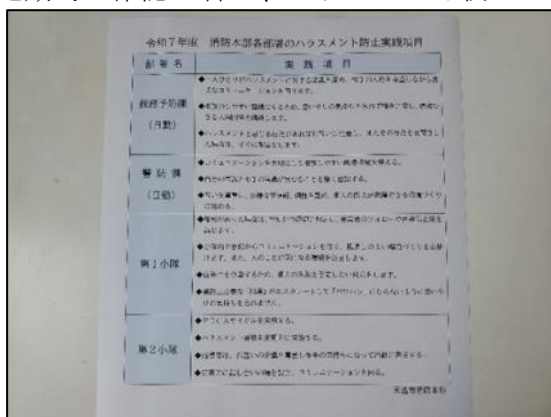
◆ ハラスメント防止実践項目を設定

東温市消防本部（愛媛）

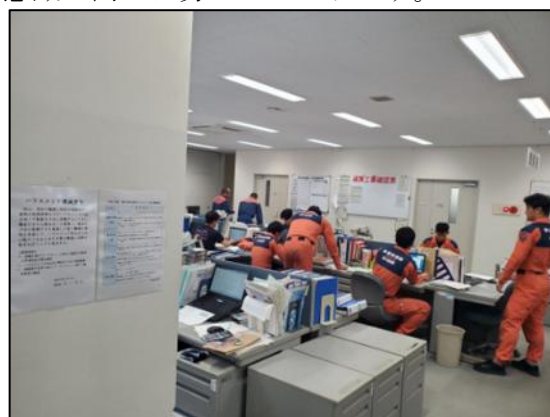
東温市消防本部では、令和7年7月15日（火）、ハラスメント防止実践項目を設定しました。これは、令和7年7月1日に消防長がハラスメント撲滅宣言したことを受け、互いの人格を尊重し、能力を十分発揮できる風通しの良い職場環境を実現することを目的として実施したものです。

この実践項目は、職員全員がどうすればハラスメントのない職場にできるかを部署ごとに話し合い、意見を取りまとめて設定したもので、イントラ伝言板（職場内ネットワークの伝言板）で全職員に周知するとともに、それぞれの職場に掲示しました。

今後も、ハラスメントのない職場にするために、掲げた実践項目を一人一人が心掛けるとともに、定期的に確認し合い、ハラスメント防止への意識の向上に努めてまいります。



【各部署のハラスメント防止実践項目】



【ハラスメント撲滅宣言とともに掲示】

国等の動き

報道発表

◆ 消防防災科学技術研究推進制度の令和7年度緊急枠研究課題の採択

（令和7年7月15日、消防庁）

消防庁では、消防防災分野における課題解決や重要施策推進に資するため、消防防災科学技術研究推進制度（競争的研究費）により研究開発を推進しています。

令和7年2月26日に大船渡市において発生した林野火災を踏まえ、林野火災に活用できる技術の研究開発を令和7年度の緊急枠研究課題として公募し、採択しましたので公表します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/5abb812db80b08df62357e05c772b2444ba3f459.pdf>）に掲載されています。

< 担当 >

消防庁総務課技術戦略室

中嶋・西田・岩井・佐々木

Tel：03-5253-7541

Mail：gisei2_atmark_ml.soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を

「_atmark_」と表示しております。

送信の際には、「@」に変更してください。

◆ 第29回JFFW交流会の開催について

JFFW交流会事務局



第29回JFFW交流会 in 岡崎

One Step! 自分らしく夢に向かって Don't Stop! 想いを伝えよう

- 1 日時
令和7年10月25日(土) 10:00から16:55まで
※意見交換会は17:00から18:30まで
- 2 場所
岡崎市図書館交流プラザ りぶら (岡崎市康生通西4丁目71番地)
- 3 定員
180名 (定員になり次第締め切らせていただきます)
- 4 参加費
5,000円 (昼食代を含む)
- 5 交流会内容
 - (1) 開会、オープニング
 - (2) 講演会
「女性消防吏員のキャリア形成と今後の展望 ~なぜ、女性消防吏員が必要なのか~」
日本体育大学保健医療学部 教授 中澤 真弓 氏
 - (3) 分科会
ア みんなどうしてる?仕事と家庭の両立 ~1人じゃない!育児や介護、思い切って打ち明けよう~
イ 心と体を健康に保つ! ~人間関係、ストレス、ハラスメント、体力維持などについて~
ウ 安全管理と現場活動 ~安全管理、緊援隊、女性の活動制限などについて語り合おう~
エ キャリアプランを作成しよう! ~作ってみよう!自分のより良い消防人生を~
 - (4) 全体発表
 - (5) 基調講演
「異業種から学ぶ、災強・最幸のチームづくり」
株式会社タフジャパン 代表取締役 鎌田 修広 氏
 - (6) 閉会
 - (7) 意見交換会 (17:00から18:30まで 希望者のみ)
- 6 申し込み
令和7年8月1日(金)から10月3日(金)まで
JFFWホームページ (<https://www.club-jffw.com>) からお願いします。



【ポスター】

【JFFWホームページの二次元コード】

【問合せ】JFFW 岡崎実行委員

岡崎市消防本部予防課 杉浦 0564-21-9850

東消防署額田出張所 田邊 0564-82-4119

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 木原

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。